

◇日時 2025年9月9日(火) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 22名

◇実践報告 兵庫県姫路市立水上小学校 菊池甲餘子先生

「かけがえのない命と共に生きよう～新しい命から自分自身の「いのち」を見つめる～」

【実践概要】

特別支援学級を担任して1年 現在育休中

昨今の「性」に関わる課題(性の多様性、望まない妊娠や性感染症、性加害・性暴力など)

「性」や「命」に関わるニュースが世間に出てくるようになった時代

→ 自分を守る、相手を傷つけない、一人一人を尊重することを指導しなければ



体への関心がない
正しい興味の持ち方ではない

小学校での指導や配慮の難しさ
特別支援学級の児童の理解度に合わない

夏休みに自分の妊娠が分かる 「命を体で感じられる活動を」

1) 正しい知識をもつ

「先生の赤ちゃん、頭めっちゃ大きいな。」 → お腹の中を予想して絵にかく

おなかの中で赤ちゃんが立っているイメージ

・助産師さんをGTにして答え合わせ

「先生のおなかには、今これぐらいの大きさの赤ちゃんがいるんだよ」

「こんなに小さな卵から、こんなに大きい赤ちゃんになるんだよ」

・妊婦を体験する・・・地面に落ちた紙を拾う、下り坂を歩く、靴下をはく

・赤ちゃんの心臓の音と自分を比べる

「速さは全然違うけど、心臓が動いているのは同じ」

「心臓の音を聞いて温かい気持ちになりました。自分がどんなふうに生まれてきたのか知りたくなりました。」

「お母さんたちは赤ちゃんをととても大切にしていると知ったから、私は赤ちゃんを産めないと思いました。小さい子はかわいいと思ったけど、大切にできる自信がないなと思いました。」

2) 自分が生まれてきたときの話を聞く

お母さんの気持ち、家族の気持ち、おなかにいたときのエピソードなど

生まれた瞬間、生まれてから

→ 家族全員でゆっくり話ができた、毎日おなかを触ってくるようになった

3) 「生と死」を考える

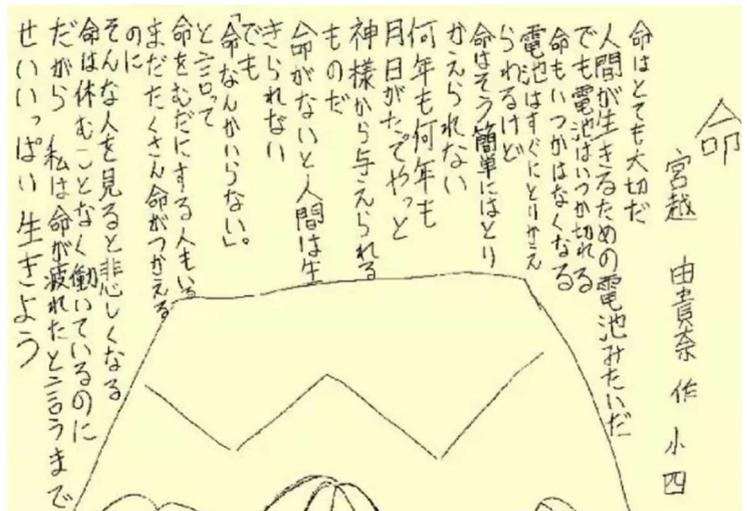
「命」 宮越由貴奈さん（小4）

宮越さんは5年生で亡くなった

命は自分が動くため、生きるために大切

なもの！

命は交換できない！



「ぼく、イライラしたとき命なんてどうでもいいってなってしまうねん。」

「この前、心臓の音聞いてとってもうれしかった。心臓は一生懸命生きてるって知った。」

「ママは僕のこと大好きって言ってたし、大事にしてもらっているから『死にたい』は言わない。」

4) これからの「命」を考える（第二次性徴の話から自分の体の守り方を考える）

・ 養護教諭を GT に

男性と女性の体の特徴を知る プライベートゾーンを体験する（隠す場所を考える）

「ここ、友達みられてうれしい?」「いや、恥ずかしい」

プライベートゾーンは、自分を守ることと相手の気持ちを考えることが大事!

・ 保護者が書いた「性の絵本 みんながもってるたからものって なーんだ?」の読み聞かせ

「どうして絵本描いたの?」

「〇〇くんに自分の体のことを知ってほしくて・・・」

5) 振り返り

大きな紙に等身大アートを描く

自分の体の大きさを客観的に見る 生まれたときの大きさを定規で測る

自分の好きな色を好きなように塗る 自分らしさ

「私、いろんな人を大事にできる人になりたい。無理かな?」



(成果)

- ・ 自分の体に関心をもつようになった
- ・ 自傷行為が減った
- ・ 友だちの素敵なところを褒める
- ・ 傷つく言い方が減った
- ・ 両親に感謝するようになった
- ・ 家族で集まって写真を見る日が増えた

(課題)

- ・特別支援の児童のレベルの合わせ方
- ・風通しの良い特別支援教育
- ・学校にける性教育の難しさ

【意見交流】

- 長期記憶のためには写真が有効。リビングに家族写真があるというだけでも思い出す。でも、心が温かくなるような学びは必ず長く記憶されているのではないか。
- 「繰り返し学ぶことで記憶に残る」とされていたが、たった1回でも明確に記憶に残ることもある。特別なことや状況（新婚旅行、修学旅行など）ではそうではないだろうか。子どもにとって特別な学びであったなら、長期記憶となると思う。
- 命の教育、性教育、ジェンダー教育には宗教が関わってくる。中東にいればそこをないがしろにできないことを痛感している。
- 自分の持っている文化と他人の文化は違うということを理解しないとイケないのだが、なかなかできないことも多い。頭で分かっているけど心で分からない。何が正しいということまでは踏み込めない。
- 性的マイノリティに関して言えば、SOGI（性的指向と性自認）の概念が出てきて捉えやすくなってきた。
- 人権の観点から言っても、最初に「正しく知る」ことを最初に大事にされていたのがいいと思う。
- 「私、いろんな人を大事にできる人になりたい。」という言葉は、学びの中から内発的に出てきたものであり、より深みがあると感じる。
- 「生きた教材」として先生自身が身をもって教材化されたところが素晴らしいと思う。
- 経験したことはどこかで心の中に残っていて、呼び出せないだけ。呼び出すきっかけが大事。
- 理解度の違いを言う前に、体験することの大切さを感じる。4人の子どもたちが同じ体験をしても感じ方はそれぞれで、一人一人の感じ方や考え方に先生が寄り添えばいいだけだと思う。